

【2023年1月23日 毎日新聞朝刊】

## 行政書士試験の対策本として注目



時事問題を読み解く力を測る「ニュース時事能力検定試験」の公式テキストが、国家資格である行政書士の試験対策本として注目されている。行政書士試験の「一般知識」科目で、公式テキストを

読んでいれば、解ける問題が複数出たためだ。

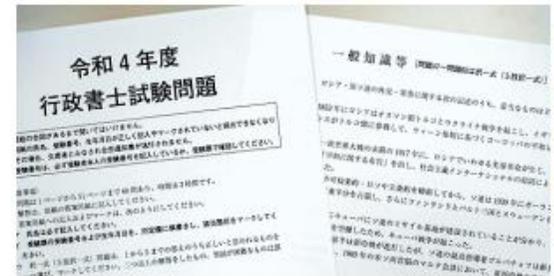
行政書士の資格は「就職や転職に役立つ」ともされ、毎年約4万～5万人が試験に挑んでいる。試験は60問300点満点で、合格点は180点以上。合格率はおおむね10%前後だ。

行政法など「法令」科目が46問のほか、「一般

知識」科目が14問出題される。この14問のうち6問以上正解しなければ、法令の科目が満点でも不合格になる合格基準ラインを設定。一般知識の科目には、政治、経済、社会の各分野から時事問題が7～8問含まれ、出題範囲が広いために試験対策が難しいとされている。

2022年11月に実施された試験では、時事問題が8問出た。このうちGDP（国内総生産）の上位6カ国の組み合わせを選ばせたり、ロシア・旧ソ連の外交や軍事について尋ねたりした4問について、ニュース検定の公式テキスト発展編（22年度版）が類似のテーマを扱っていた。21年の行政書士試験でも公式テキストを読んでいれば、正答や答えの絞り込みが容易な問題が複数あった。

ある受験指導の講師は、ブログで「試験対策として手軽にできるのは、ニュース検定のテキスト



2022年11月に実施された行政書士試験の問題文

を読むこと」と受験生に勧めるなど、インターネット上でも話題になっている。資格試験のオンライン予備校「資格スクエア」（東京都渋谷区）は、23年度の行政書士講座でニュース検定の公式テキストと問題集の活用を決めた。【尾崎敦】

